お薦めの書籍

木下大輔

2023 年 06 月 07 日

夏休みになると、日本語の学習にもまとまった時間を確保することができます。長期の休みに日本語で書かれた本を読んでみるというのもよいと思います。もうすぐ夏休みになるので、お薦めの書籍を紹介します。

東京在住の蓮尾さん、横浜在住の中村さん、オーストラリア在住の室井さんが愛読の書の書名と紹介文を送ってくれました。「長期の休みにに日本語の本を読んでみたい」と思っている人は参考にしてください。本の内容について、蓮尾さん、中村さん、室井さんにもっと詳しく聞いてみたい、という人は連絡をください。

1　蓮尾さん推薦の書

蓮尾さん推薦の書は以下のものです。

小川洋子さんの本から2冊。

- 「ミーナの行進」
  - 著者: 小川洋子
  - 出版社: 中央公論新社
  - ISBN-10: 4122051584
  - ISBN-13: 978-4122051584

1972年3月16日、4月に中一になる朋子は前日に開通した山陽新幹線（岡山—新大阪）に乗って、岡山から新神戸に向かった。母親の事情で芦屋の伯母のお屋敷に預けられたのだ。そのお屋敷には、ミーナと呼ばれる１才年下の従妹がいた。ドイツ人の祖母を持つ美少女のミーナは、病弱で、想像力豊かな読書家で、ペットのコビトカバに乗って小学校に通学していたから、芦屋のお屋敷町では有名だった。朋子は、すぐにミーナと親友同士になる。朋子の憧れである伯父さんの家族たちは、みな個性的で、ミーナと暮らす芦屋のお屋敷での生活は、まるでおとぎ話のような楽しさだった。朋子とミーナは、思春期前期の大切な一年間を、一家の暖かいまなざしに守られて過ごしていき、やがて朋子は母のもとに戻り、別れの日を迎える。

日本中が大騒ぎした1972年10月８日のジャコビニ流星雨騒ぎの話も出てきます。

- 「博士の愛した数式」
  - 著者: 小川洋子
  - 出版社: 新潮社
  - ISBN-10: 4101215235
  - ISBN-13: 978- 4101215235

交通事故のせいで８０分間しか記憶が続かなくなってしまっている数学者と、そこへ派遣されたベテラン家政婦との間の心温まる物語。家政婦の10才の息子も加わり話は広がる。随所に散りばめられた数論が何だかとても嬉しい。素数って美しいと思えます。

瀧羽麻子さんの本から2冊。

- 「株式会社ネバーラ北関東支社」

- 著者: 瀧羽麻子
- 出版社: メディアファクトリー
- ISBN-10: 434441683X
- ISBN-13: 978-4344416833

東京の外資系有名大企業でバリバリ働いていた弥生は、仕事に疲れ恋に破れて東京を逃げ出したくなり、小さな納豆メーカーの北関東支社に転職した。小さな田舎町での出会いや仕事への取り組みなど、読んでとても爽やかになる作品。作者は芦屋で生まれ、神戸女学院で中・高を過ごした後、京大を出て、超有名な国際的大企業に就職した才媛。読んでいて、この人頭いいなあと思うこと請け合い。

- 「左京区七夕通東入ル」
  - 著者: 瀧羽麻子
  - 出版社: 小学館
  - ISBN-10: 4094087095
  - ISBN-13: 978-4094087093

作者の左京区三部作の一。作者が大学時代を過ごした京都を舞台に学生生活と胸キュンの恋心を描いた、読んで幸せになる素敵な恋愛小説。「7月7日にわたしたちは出会った。」で始まるこの本は女子大学生必読ではないかと思う。京都に行ったことのある人、京都に行きたいと思っている人には特におススメ。

- 「日本語の作文技術」
  - 著者: 本田勝一
  - 出版社: 朝日新聞社
  - ISBN-10: 4022618450
  - ISBN-13: 978-4022618450

初版は1976年の古い本だが、学生のころに読んでとても役に立った。一読して意図するものが過不足なく読み手に伝わるのが実用として（文学ではなく）良い文章であり、良い文章を書くために身に付けるべき技術とその理由が解説してある。曰く、センテンスは短く、主語・目的語・述語を明示的に書く、長い修飾語ほど先に・短いほどあとに、逆接の「が」は1センテンスに一つ、など豊富な事例とともに解説してある。日本語非母国語人には日本語の文法解説の細かいところは読み飛ばしても参考になると思う。

- 「庭に来る鳥」
  - 著者: 朝永振一郎
  - 出版社: みずず書房
  - ISBN-10: 4622050056
  - ISBN-13: 978-4622050056

ノーベル物理学賞受賞者である朝永振一郎さんの随筆集。大学院の頃、一度だけ聴いた朝永さんの講義は、眠くて仕方なかった湯川さんの講義と正反対で、とても面白く、全く眠くもならず、その時だけは量子力学が完璧に分かったような気になった。この随筆も洒脱で肩に力が入っておらず、話題も広範で実に素晴らしい。

有川浩さんの本から2冊。

- 「阪急電車」
  - 著者: 有川浩
  - 出版社: 幻冬舎文庫
  - ISBN-10: 4344415132

- ISBN-13: 978-4344415133

阪急宝塚線の宝塚駅から西宮北口駅までの8駅を結ぶローカル線の阪急今津線。往復16の駅ごとに一話が形成されて繋がっていく。市井の普通の人たちの間で起きる出来事を紡ぐ物語。読み手それぞれが、いずれかのエピソードに、そうだよなあと言いたくなるところが出てくる。映画化もされたので、映画もお勧め。

- 「植物図鑑」
  - 著者: 有川浩
  - 出版社: 幻冬舎文庫
  - ISBN-10: 4344419685
  - ISBN-13: 978-4344419681

「お嬢さん、よかったら俺をひろってくれませんか。咬みません。躾のできた良い子です。」と言われて、深夜、一人暮らしのマンションのポーチで、さやかが拾った行き倒れは、家事を何でも完璧にこなすイケメン男子のイツキだった。翌朝、目覚めると美味しい朝食が用意されており、さやかはイツキに同居を提案することになった。イツキは植物オタクで休日には二人で近所の食べられる植物のハンティングに。ちょっと風変わりな同居生活が何となく嬉しくなる恋愛小説。

- 「できそこないの男たち」
  - 著者: 福岡伸一
  - 出版社: 光文社新書
  - ISBN-10: 4334034748
  - ISBN-13: 978-4334034740

「生物と無生物のあいだ」で一躍世に名を知られた筆者が書いた続編。生物の基本仕様は産む性であるメスであり、オスは遺伝子の攪拌のためにメスから作られた派生物であるという見方が新鮮。派生物であるが故にオスの設計には本質的に無理があるのだというのだ。オスは出来損ないのメスであるというのが、「できそこないの男たち」という題名の由来。

- 「宇宙飛行士選抜試験」
  - 著者: 内山崇
  - 出版社: SB新書
  - ISBN-10: 481560522X
  - ISBN-13: 978-4815605223

筆者はISSへの補給船こうのとりの初号機から最終9号機までのフライトディレクターとして大活躍した内山崇さん。彼は2008年に行われたJAXAの第5回宇宙飛行士選抜試験でファイナリスト10名に残ったものの宇宙飛行士には選ばれなかった。JAXAのエンジニアとしてその後を生きて大活躍している内山さんの挑戦と葛藤の記録。宇宙飛行士の試験を受けてみようと思ったらぜひ挑戦を。私は 1998年の第4回選抜で２次敗退組（ファイナリストにもなれなかった）ですが、素晴らしい仲間を得ることができました。

- 「不格好経営」
  - 著者: 南場智子
  - 出版社: 日本経済新聞出版社
  - ISBN-10: 4532318955
  - ISBN-13: 978-4532318956

DeNA創業者の南場智子さんの自伝。津田塾大を出てマッキンゼーに入社し、ハーバード大でMBAを取得した南場さんは、コンサルタントとして成功し、地位も高給も得ていた。しかし、1999年に、自分で経営できないことにもどかしさを感じてマッキンゼーを辞め、DeNAを起業する。その後、紆余曲折を経てモバゲーで大成功を納めたものの、御夫君の病気ですっぱり社長職を退いた。後進に後を託した2013年に書かれたこの本は、若くて能力も野心もある若者に未来に挑戦する勇気を与えると思う。御夫君は2016年に逝去され、南場さんは2017年に DeNAの代表取締役に復帰されている。

- 「おそろし　三島屋変調百物語事始」
  - 著者: 宮部みゆき
  - 出版社: 角川文庫
  - ISBN-10: 4041002818
  - ISBN-13: 978-4041002810

宮部みゆきの江戸もの。ちょっと怖い話。三島屋という大店を構える叔父夫婦のもとに身を寄せる17歳のおちかの元に持ち込まれる数々の不思議な話の第一巻。おちかは実家で起きたある事件をきっかけに心を閉ざしているが、持ち込まれる人々の話を聞いているうちにおちかも変わってくる。429ページもあるが、下記５つの短編から成っており、少しずつ読んでも面白い。

- 第一話　曼殊沙華
- 第二話　凶宅
- 第三話　邪恋
- 第四話　魔鏡
- 第五話　家鳴り

2　中村さん推薦の書

中村さんと中村夫人の推薦する書は以下のものです。

- 「鹿の王」
  - 著者: 上橋菜穂子
  - 出版社: 角川書店
  - ISBN: 9784041054895
  - `https://kadobun.jp/special/shikanoou/`

  <物語を読む >

  空想小説と聞いて、あなたはどのような世界が描かれていると想像しますか？夢のような技術が使われている世界？想像上の生き物と人が会話する世界？それとも、雨が地から天に降り上がる奇想天外な世界？

  わたしは、空想小説とはもっと奥深いものだと思います。まるで平行世界のように、現実と対応がつくほど緻密に作り込まれた設定。それなのに、過去から今に至るまで、世界のどこにもなかった世界。

  そんな現実性のない物語に、読者はなぜ惹き込まれてしまうのでしょう。

  わたしは、現実的であっても空想的であっても、物語には共通しているものがあると思います。それは、人の意思と、その交わりです。たとえ地から天に向かって雨が降り上がるような世界であったとしても、誰かと誰かが出会い、交わり、物語が進んでいく。そこに読者の感情が通えば、その先を知りたいと思えれば、それはあなたにとって読むに値する物語なのだと思うのです。

  この物語は、想像の世界のお話です。しかしきっと、あなたが心惹かれる人物が登場するでしょう。あなたの暮らす世界と、何か付合しているものがあるでしょう。そこに描かれた世界

に、恰も自分がそこにいるかのような臨場感を感じながら物語にひき込まれていくでしょう。そして読み終わった時に、この空想の世界で起きた出来事は、空想ではないかもしれない、と思うかもしれません。そしてそれは、今あなたが暮らすこの世界を理解する、何かのヒントかもしれないのです。
(中村)

- 「季節のかたみ」
  - 著者: 幸田文
  - 出版社: 講談社
  - ISBN: 978-4-06-263264-5
  - https://bookclub.kodansha.co.jp/product?item=0000197352

「言葉は、その国の人の気質・性格を写す鏡だと思います。少し難しいですが、昔の日本人が持っていた感受性 (自然や物や人によって、心の中に生じる気持ち。情緒とも) を感じてもらえればと思います。」 (中村)

- 「『空気』の研究」
  - 著者: 山本七平
  - 出版社: 文藝春秋
  - ISBN: 978-4167306038
  - https://books.bunshun.jp/ud/book/num/9784167911997

「日本人という集団は時に、集団として非合理な判断をする国民性を持っています。本人たちは論理的に結論にたどり着いているのですが、その論理は非科学的なのです。この書は、そんな日本人を鋭く分析した本です。国際性とは、言葉を知ることではありません。日本語を通して、日本人という傾向を掴んでみてはいかがでしょうか。」 (中村)

- 「だれが原子をみたか」
  - 著者: 江沢洋
  - 出版社: 岩波書店
  - ISBN: 978-4006002817
  - https://www.iwanami.co.jp/book/b255912.html

「科学とは知識の集積ではありません。知識に構造を与えるものです。構造とは論理の繋がりです。この書は、身近な経験から、いかにして人は原子の存在を信じるに至ったかを平易に書き起こした書です。科学的知識を得るだけではなく、科学的知識を得る方法にも、目を向けてみてはいかがでしょうか。」 (中村)

- 「西の魔女が死んだ」
  - 著者: 梨木香歩
  - 出版社: 新潮社
  - ISBN: 978-4-10-125332-9
  - https://www.shinchosha.co.jp/book/125332/

「不登校の少女が、祖母との対話を通して自分らしさを取り戻していくお話。自然を活かした古風な生活ぶりが新鮮。」 (中村夫人)

- 「舟を編む」
  - 著者: 三浦しをん
  - 出版社: 光文社
  - ISBN: 978-4-334-92776-9
  - https://www.kobunsha.com/shelf/book/isbn/9784334927769

  「辞書を作り上げるまでの人間模様を描いたお話。言葉に向ける情熱と執念が素晴らしい。」(中村夫人)

- 「終末のフール」
  - 著者: 伊坂幸太郎
  - 出版社: 集英社
  - ISBN: 978-4-08-746443-6
  - https://books.shueisha.co.jp/items/contents.html?isbn=978-4-08-746443-6

  「８年後に小惑星が衝突し、地球は滅亡すると予告されてから５年が過ぎた世界の話。全人類が余命３年を迎え、いかに生きるか？をテーマにした短編集。」(中村夫人)

- 「バッタを倒しにアフリカへ」
  - 著者: 前野ウルド浩太郎
  - 出版社: 光文社
  - ISBN: 978-4-334-03989-9
  - https://www.kobunsha.com/shelf/book/isbn/9784334039899

  「『バッタに食べられたい』と言う夢を叶えるため、アフリカで蝗害を研究するノンフィクション。著者のバッタへの愛の溢れた一冊。」(中村夫人)

- 「墨攻」
  - 著者: 酒見賢一
  - 出版社: 文藝春秋
  - ISBN: 978-4-16-790071-7
  - https://books.bunshun.jp/ud/book/num/9784167900717

  「皆さんがよくご存知の諸子百家。その中の1つである墨子は、兼愛を説く宗教的存在とされています。しかしその実態は、防御専門の恐るべき戦闘集団でした。小国、梁から防衛を依頼され、送り込まれた革離。城を守ろうと奮闘を始める。」(中村)

- 「コンスタンチノープルの陥落」
  - 著者: 塩野七生
  - 出版社: 新光社
  - ISBN: 978-4-10-118103-5

- https://www.shinchosha.co.jp/book/118103/

「ローマ帝国の正当後継たる東ローマ帝国は、いつどのようにして滅びたのか。商人、僧侶、義勇兵などが記した今に伝わる記録を読み解き、小説家の想像力を持って状況を再構築しています。ロードス島、レパントと続く、イスラム教 vs キリスト教の戦記物三部作の1作目。」(中村)

- 「思考の整理学」
  - 著者: 外山滋比古
  - 出版社: 筑摩書房
  - ISBN: 9784480020475
  - https://www.chikumashobo.co.jp/product/9784480020475/

「グライダーは滑空するだけ、飛行機は自在に飛べる。学校教育は、グライダー人間を養成していないであろうか。著者は読者に、飛行機のように自由に考えられるような、思考法についてものがたります。ふとしたことについて、考える視点を広げてみませんか？」(中村)

3 室井さん推薦の書

室井さんの推薦する書は以下のものです。

- 「人生は20代で決まる (The Defining Decade)」
  - 著者: Meg Jay
  - 訳者: 小西敦子
  - 出版社: 早川書房
  - ISBN: 9784150504601
  - https://www.hayakawa-online.co.jp/shopdetail/000000013210/

「アメリカの心理学者が、若者へのカウンセリング経験をもとに書いた 1 冊です。私がこの本と出会ったのは 30 代後半でしたが、自信をもってこれからを生きていくためにも、大学生の皆さんにはぜひ今のうちに読んで欲しいと思います。 Kindle 版、英語版もあります。」(室井)

なお、室井さんからの情報によると Youtube に関連する内容のビデオがあるそうです。

https://www.youtube.com/watch?v=vhhgI4tSMwc

- 「コロボックル物語(1) だれも知らない小さな国」
  - 著者: 佐藤さとる
  - 出版社: 講談社
  - ISBN: 978-4-06-276798-9
  - https://bookclub.kodansha.co.jp/product?item=0000205509

「コロボックルは、北海道の原住民アイヌに伝わる小人のことです。誰にでも、この人なら信頼できる、という人が 1 人はいるのではないでしょうか。コロボックルは本当に信頼できる人間とだけ友達になります。 60 年も前に書かれたお話ですが、スタジオジブリの映画のようなワクワクするファンタジーです。全部で 6 巻あります。」(室井)

- 「さいごの恐竜ティラン」

- 著者: 村山由佳
- 出版社: 集英社
- ISBN: 4-8342-5031-8
- https://books.shueisha.co.jp/items/contents.html?isbn=4-8342-5031-8

「村山由佳さんの小説は、どれも心癒される作品が多いですが、その中でもこの 1 冊は、短くて読みやすい大人のための絵本です。巨大隕石の衝突によって、地球から恐竜が姿を消す最後の瞬間を生きる、恐竜の親子の物語。自分は草食恐竜なのに、敵である肉食恐竜の子供を育てる母親の無償の愛に心があたたまります。最後、もう食べるものがなくなってしまったときにとった親子の行動には、涙が出てしまうとともに、親子の愛情に感動するお話です。」 (室井)

- 「ブラック・ジャック(1)〜(12)」
  - 著者: 手塚治虫
  - 出版社: 講談社
  - ISBN: 978-4-06-373758-5
  - https://kc.kodansha.co.jp/product?item=0000043846

「手塚治虫さんは日本を代表する素晴らしい漫画家です。鉄腕アトムなど代表作はいろいろありますが、私が好きな作品は、天才外科医ブラック・ジャックです。普通の医者には不可能な治療を完璧にこなしていく話は爽快です。そして、人から嫌われようとも、正義のために闘う姿に、感動し、深く考えさせられる名作です。」 (室井)

4 木下推薦の書

4.1 上橋菜穂子さんの「守り人」シリーズ

「守り人」シリーズは、大学教授で作家でもある上橋菜穂子さんが書いた児童向けの小説です。易しい日本語で書いてあるので、読みやすいと思います。一方で、国と国との関係、先住民と征服民族のこと、貧富の差の問題、支配階級と被支配階級の関係、など、現代の社会問題にも関係するような深い内容も描かれているので、大人でも読み応えがあります。全部で 12 冊ある作品です。

- 上橋菜穂子公式サイト「木漏れ陽のもとで」 (Fig. 1)
  - http://uehashi.com/
- 守り人シリーズ (http://uehashi.com/book/monogatari/#obi35)
  - 精霊の守り人
  - 闇の守り人
  - 夢の守り人
  - 虚空の旅人
  - 神の守り人 (来訪編)
  - 神の守り人 (帰還編)
  - 蒼路の旅人
  - 天と地の守り人第一部ロタ王国編
  - 天と地の守り人第一部カンバル王国編
  - 天と地の守り人第一部新ヨゴ皇国編
  - 流れ行く者
  - 炎路を行く者

中国語版も出版されているようなので、日本語で読むのはまだ難しいと思う人は、中国語訳を読んでみるのもよいかもしれません。

最近、「風と行く者」という新しい本が出版されました。(この本も買って読みました。)

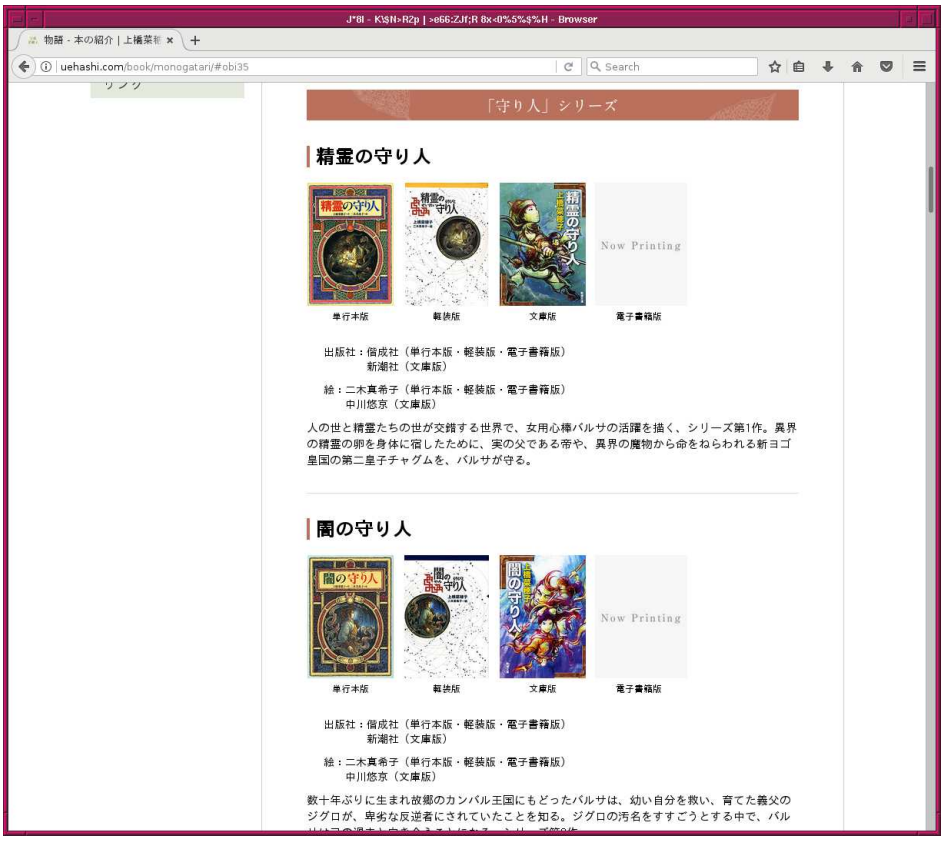

Figure 1: 上橋菜穂子さんの公式サイト「木漏れ陽のもとで」

4.2 上橋菜穂子さんの「鹿の王」

上橋菜穂子さんの「鹿の王」という本もすばらしいです。病気の原因や感染についての描写もあって、科学が好きな人はそういった面でも楽しめます。「守り人シリーズ」と同様に、征服民族と被征服民族の関係なども描かれています。他にも、国と国との関係や、政治について、家族について、など、さまざまなことを考えさせられます。

文章が多いので、根気よく読む必要があります。

これまで出版されていた「鹿の王 (上)」と「鹿の王 (下)」に加えて、「水底の橋」という続編も出版されました。「水底の橋」も読んでみました。とてもよい内容です。

4.3 上橋菜穂子さんの「香君」

上橋菜穂子さんの「香君」も読み応えのある素晴らしい作品です。支配の構造、支配される側と支配する側との関係、中央と辺境、食料生産、経済、信仰と統治の関係、など多くの興味深い内容が盛り込まれています。オアレ稲という、厳しい気候の痩せた土地でも育ち、収量が多く、害虫にも病気にも強い作物があるが、オアレ稲を育てるには毎年帝国から種を入手せねばならない、という世界が描かれています。生活を良くするためにオアレ稲を導入するのか、今後ずっと服従せねばならぬことになるオアレ稲など育てず麦や蕎麥で生きていくのか、という話は、現実世界でも似たようなことがあるように思います。

- https://books.bunshun.jp/sp/kokun

4.4 高橋克彦さんの「陸奥三部作」

日本の東北地方出身の高橋克彦さんによる「陸奥三部作」は、古代に東日本に住んでいた「蝦夷」という人たちが、「大和」に征服されていく過程を描いた歴史小説です。他にも、「風の陣」や「時宗」などよい作品が多数あります。

- 陸奥三部作

- 火怨(かえん)
- 炎立(ほむらたつ)つ
- 天を衝(てんをつく)く

- 風の陣(かぜのじん)
- 時宗(ときむね)

高橋克彦さんの作品は、どれも、金庸の武侠小説に匹敵する (かもしれない) すばらしい歴史小説だと思っています。
「水壁」という本も出版されました。「水壁」も蝦夷と大和の関係についての話です。

4.5 山崎豊子さんの小説

山崎豊子さんの小説はどれも素晴らしいと思います。ただし、分量が多く、また、内容も難しいかもしれません。代表作に、以下の作品があります。

- 不毛地帯(ふもうちたい)
- 沈まぬ太陽(しずまぬたいよう)
- 華麗なる一族(かれいなるいちぞく)
- 白い巨塔(しろいきょとう)

4.6 「つばき、時跳び」

梶尾真治さんの小説に「つばき、時跳び」という作品があります。作家を目指している主人公が江戸時代に飛ばされてしまうというお話です。また、江戸時代の女性が現代にやってきたりもします。江戸時代の日本の描写がとても美しい作品です。

4.7 八木啓代さんの「パンドラ・レポート」

「パンドラ・レポート」は、音楽家であり、ジャーナリストでもある八木啓代さんによる中南米での生活を描いた文章です。八木啓代さんのウェブページからダウンロードして読むことができます。

- http://nobuyoyagi.com/PANDORA/PANDORA_REPORT-01.txt
- http://nobuyoyagi.com/PANDORA/PANDORA_REPORT-02.txt
- http://nobuyoyagi.com/PANDORA/PANDORA_REPORT-03.txt
- http://nobuyoyagi.com/PANDORA/PANDORA_REPORT-04.txt
- http://nobuyoyagi.com/PANDORA/PANDORA_REPORT-05.txt
- http://nobuyoyagi.com/PANDORA/PANDORA_REPORT-06.txt
- http://nobuyoyagi.com/PANDORA/PANDORA_REPORT-07.txt
- http://nobuyoyagi.com/PANDORA/PANDORA_REPORT-08.txt
- http://nobuyoyagi.com/PANDORA/PANDORA_REPORT-09.txt
- http://nobuyoyagi.com/PANDORA/PANDORA_REPORT-10.txt
- http://nobuyoyagi.com/PANDORA/PANDORA_REPORT-11.txt
- http://nobuyoyagi.com/PANDORA/PANDORA_REPORT-12.txt

4.8　永井明さんのエッセイ

永井明さんは医者で、 50 歳を超えたころから船医を何度も経験されていた方です。新聞などにエッセイを書いていました。最後の本になった「ただ、ふらふらと」に収録された亡くなる直前に書いた二つの文章が秀逸です。

- 「みえこ姐さんのパラソル」
- 「ヒロシさんの絵筆」